

平成22年度重点研究事業の事後評価結果の概要

平成24年 3月
研究推進委員会

本学では重点研究事業の成果などの状況を把握し、今後の研究の更なる発展に資するために、各研究事業の事後評価を行った。

その結果は次のとおりである。

1 対象となる事業

平成22年度重点研究事業で採択した研究課題のうち、「科学研究費補助金獲得支援」の研究区分で採択した課題を除く、計20件

【平成22年度重点研究事業の研究区分】

高等教育推進研究, 科学研究費補助金獲得支援, 戦略的プロジェクト研究, 地域課題解決研究, 学内ベンチャー育成研究, 学部プロジェクト研究

2 事後評価の方法:

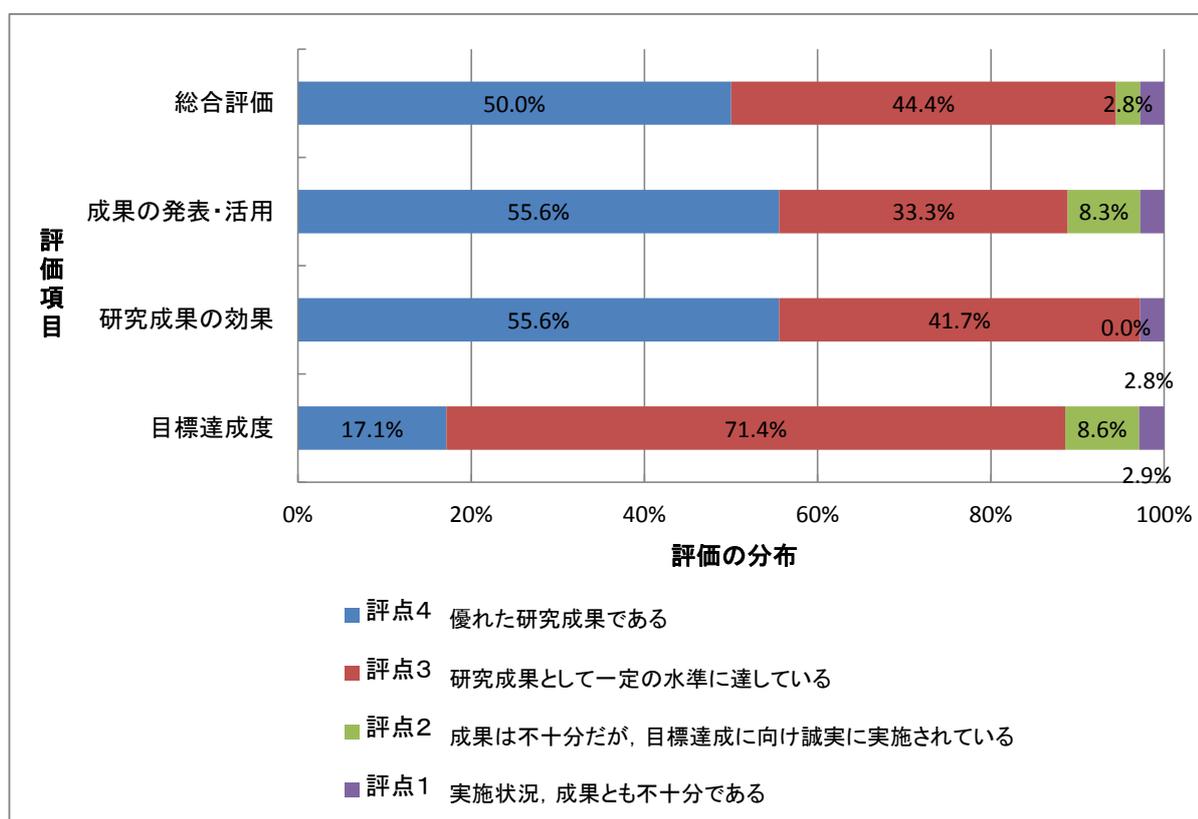
外部有識者(1研究事業あたり2名)による書類評価

ただし、地域課題解決研究は外部有識者及び課題提案者各1名、学部プロジェクト研究は外部評価者1名による。
(外部評価者計36名による評価)

3 評価結果の概要: 以下のとおり。

(単位: 件)

	目標達成度	研究成果の効果	成果の発表・活用	総合評価
評点4	6	20	20	18
評点3	25	15	12	16
評点2	4	0	3	1
評点1	1	1	1	1



4 学部プロジェクト研究について

【平成22年度学部プロジェクト研究総括】

学部プロジェクト研究は、平成20年度より開始し今回が3回目である。
学部によって学部全体、学科全体又は学部の中の特定研究グループによる研究という構造は昨年度の学部プロジェクト研究と同じである。
学部プロジェクト研究は、学部単位で教育の質向上や学部の独自性を発揮できる研究の育成等に取り組む研究を推進することを目的としており、各学部が取り組んだ研究テーマはいずれもこれに合致したものであった。しかし、個別研究間の繋がり、学部としての成果の共有、研究成果の波及効果、発展については課題があることが指摘されている。
学部長のリーダーシップのもと、学部として戦略性とまとまりのある研究事業に取り組めるよう、学部プロジェクト研究の質の向上が望まれる。

【学部別事後評価要約】

人間文化学部 「健康科学教育プログラムの充実に資する総合的な取組－専門4分野の連携強化と協動的発展による健康科学科の魅力アップを目指して－」

健康科学教育プログラムの充実に資する健康科学科を構成する4分野の教員13名が6項目の研究テーマを設定し、互いに連携しつつ取組を進めた。
それぞれの分野では成果が得られたものの、個別研究間の関連の明確化、成果の共有、分析がほとんどなされていない点が残念である。
今回のプロジェクト研究を契機に、専門4分野で課題を共有し、新たな教育・研究プログラムの構築に向けて、連携強化のための取組みを深化させることを期待する。

経営情報学部 「経営・環境および社会システムの最適化と高次情報処理に関する研究」

経営情報学科を中心に13名の教員が、最適システム分野、環境情報処理分野に焦点を置き、経営・環境・社会への活用を目指した新たな情報技術を研究開発し、研究開発した最適化手法および情報処理技術を実問題に適用することにより、その実際的な有効性を確認した。
各研究テーマにおける研究内容は評価できるものの、学部としてまとまりのある研究事業になっていないことは否めない。
今回の研究成果をふまえて、こうした研究に参加できる人材育成に向けた教育的取組みを期待する。

生命環境学部 「アメニティ社会の実現に貢献できる高機能分析法の開発」

生命環境学部の両学科にまたがる教員7名が、分析手法を開発し、得られた成果を融合発展させて本学に「高機能分析力」を醸成するという明確な目的をもってそれぞれの研究テーマに取り組んだ。
それらの研究の遂行によってセンシング・モニタリング技術開発に関する研究成果が多数得られた。
しかし、各研究の横のつながりが見えてこないため、各研究の寄せ集め的な印象をぬぐえない。
今後、テーマ間の融合を十分に行って、大学として「高機能分析力」を構築することを期待する。

保健福祉学部 「運動・作業・認知機能障害の効果的リハビリテーション法の開発に関する研究
－ 社会脳 (social brain) の発達と障害に関する研究基盤の育成 －」

保健福祉学部の全学科の教員15名が、これまでの学部プロジェクト研究で蓄積した成果をさらに発展させた「社会脳」の研究基盤を育成する研究であり、学部の独自性を発揮できる研究として、学部プロジェクト研究の趣旨・目的に合致している。
多数教員による共同研究の割には、論文・学会発表等が特定の教員による成果に限られている。
今回の研究で明らかになった研究課題に引き続き取組み、新たな効果的リハビリテーション法の開発につなげることを期待する。